

故 木澤誠次氏追悼

第25回全道下の句歌留多苦小牧大会規程

第1条 趣旨

この規程は、苦小牧樽前歌留多倶楽部が主催する全道下の句歌留多苦小牧大会（以下「大会」という。）を円滑に進行するため、必要な事項を定める。

第2条 選手

- 1 大会に参加する選手（以下「選手」という。）にあたっては、歌留多道精神に則り、子ども青少年の手本になるように心がけ、周りに迷惑をかけることの無いように振る舞うことこと。
- 2 大会の参加資格は、中学校卒業以上とする。

第3条 チーム登録

- 1 チームの登録は、全日本下の句歌留多協会（以下「協会」という。）に加盟する倶楽部単位で行い、登録選手は必ず同一倶楽部の部員でなければならない。
- 2 協会に加盟している倶楽部においては、人数が不足している場合であっても協会に加盟する他の倶楽部から部員を借り入れてチームを登録することはできない。
- 3 協会に加盟していない倶楽部・同好会に所属するものは、隣接または最寄りの協会に加盟する倶楽部として参加することができる。
- 4 選手登録できる人数は1チーム3人以上5人以下とし、1試合に出場できるのは3人とする。
- 5 登録選手が4人以上の場合、試合ごとに出場選手を自由に組み替えることができる。
- 6 組み合わせ抽選後は、如何なる事由があっても登録選手の変更は認めない。
- 7 出場選手は、試合開始後、怪我、体調不良等の理由により規程第7条にある総括審判または競技運営役員及び委員（以下「主催者」という。）が認める場合は、控え選手と交代することができる。ただし、怪我、体調不良等の理由により試合中に交代した選手は、試合当日の残りすべての試合に再び出場することはできない。
- 8 競技は、B級として行う。

第4条 苦小牧大会競技規程

- 1 競技は、全日本下の句歌留多協会競技規程（以下「協会競技規程」という。）に準ずる事を基本とするが、大会運営において試合進行を促進するために苦小牧大会規程（以下「大会競技規程」という。）として本条を定める。協会競技規程と大会競技規程が相反する場合は、大会競技規程を優先する。
- 2 選手は、大会運営に積極的に協力することとし、進行の妨げ、遅延になるような行為は厳に慎むこと。
- 3 選手は、主催者の審判員配置の要請に応じなければならない。
- 4 チームは、横1列に並び、右から順に名称を「守備」「中堅」「突」というポジションとする。また、対戦のチームは原則対称で向かい合い、「守備」の前を「突」、中堅の前を「中堅」「突」の前を「守備」とする。

- 5 中堅と突の各ポジションの持ち札の最大枚数は10枚までとする。また、1試合を通して中堅、突は守備の持ち札枚数を超過して札を持つことはできない。
- 6 「待った」は、1試合につき1チーム5回までとする。「待った」中に作戦を協議することを認めるが、1回の「待った」は概ね1分以内とし、札の整頓、作戦協議を伴わない速やかな札送りや5枚・3枚切れなどは「待った」に含めず、審判が必要に応じて間合いをとるものとする。
- 7 ポジション交代は1試合につき1チーム3回までとし、ポジション交代をするときは「待った」をかけるものとし、ポジション交代に要する時間は1回あたり概ね1分30秒以内とする。尚、ポジション交代するときの「待った」は回数に含めないものとする。
- 8 対戦するどちらかのチームの札が2枚または1枚（2場所または1場所）になるときの選手交代はポジション交代に含めないが、2場所または1場所になる場合において、所定のポジションについての選手と抜けた選手、または選手同士のポジション交代は前項に定めるポジション交代とみなす。

第5条 読み手

- 1 読み手は公平を期すため、主催者において、試合を行っていないクラブから選考し、直接指名することを基本とする。ただし、これによりがたい場合は、主催者の判断により読み手を指名することができる。
- 2 主催者は、大会会場の広さや競技環境を勘案して、必要に応じてマイク等音響設備を使用させるものとする。

第6条 審判

- 1 円滑に試合を進行するため、試合を行うすべてのシートに審判を配置する。
- 2 審判は、試合に出場していない選手または審判として適当と認められた者の中から主催者が指名する。
- 3 審判として、主審及び副審をシートの両端に配置する。また、主催者は選手からの求めにより、中堅の傍らに中審を配置することができる。
- 4 主審は、競技の判定の他、読み手への「待った」、「返し」の伝達を行うものとする。
- 5 副審は、競技の判定の他、各チームの出場選手、「待った」の回数、ポジション交代の回数、勝敗確定時の札の差枚数を記録するものとする。
- 6 審判は、読み手への「待った」、「返し」の伝達は旗を用いて行うものとし、「待った」は赤旗、「返し」は白旗を使用することを基本とする。尚、使用する旗の色は、主催者の判断で変更することができる。
- 7 審判に指名されたものは、公平を期すため、自らが所属するクラブのチームの試合が行われるシートにつくことはできない。
- 8 選手は、取り札の「早い」「遅い」またはお手付きの「あり」「なし」など、双方の意見が相違する場合は、速やかに審判に判定を委ねるものとする。
- 9 選手は、審判に判定を委ねる場合は双方の同意のもとで行うものとする。
- 10 審判は、選手から委ねられた場合を除き、自ら判定を述べてはならない。
- 11 審判は、相対する選手の間で2～3回の問答で決着しない場合は、判定を委ねよう促す。
- 12 審判の判定は絶対であり、選手は審判の判定に不服を示す言動をしてはならない。

13 審判は、選手に故意に試合進行を妨げ、遅延させる行為が見られた場合は、速やかに総括審判に報告するものとする。

第7条 総括審判

- 1 総括審判は、主催者としての権限を有し、怪我や体調不良等の選手の交代の判断、遅延行為への警告や退場の判断、ルール解釈の説明等を行うものとする。
- 2 総括審判は、主催者が指名し、読み手の傍らに1名以上配置する。
- 3 総括審判は、試合が行われているシートの審判からの「待った」「返し」を読み手に伝達するものとする。
- 4 総括審判は、選手に故意に試合を遅延させる行為が認められたときは、当該選手に警告し、これに従わない場合は退場を命じることができる。尚、退場を命じられた選手は、当該大会の残りすべての試合に出場することができない。

第8条 試合

- 1 1試合あたりの時間は、概ね1時間30分（90分）とし、試合前後の準備、整頓等を含めた時間は概ね2時間を目安とする。
- 2 試合では概ね50枚読み上がりの時点で、換気のための休憩時間（5分程度）を確保するものとする。
- 3 選手は、休憩時間にトイレなどを済ませるものとし、競技中にやむを得ずトイレなどで試合を中断した場合、当該チームの「待った」回数に1を加える。このとき、当該チームがすでに所定の「待った」回数に達している場合は、ペナルティとして相手チームから札1枚をもらわなければならない。
- 4 試合中の残りシートが1シートとなった場合、時間短縮のため、読み手と審判は協力し速やかに読み札と残り札を確認の上、枚数合わせをするものとする。
- 5 試合場には、敷物、飲み物（蓋付の物に限る）、タオル、救護用具等試合に必要な物以外、持ち込んで서는ならない。
- 6 飲酒している選手の出場及び競技中の飲酒、喫煙を禁止する。
- 7 試合をビデオカメラ等撮影機材（以下「カメラ等」）で撮影する場合は、必ず相手チーム及び総括審判の許可を得るものとし、設置場所は審判の着座位置を優先し、判定に支障がないようにしなければならない。尚、カメラ等の操作は持ち込んだ選手のみ可能とする。
- 8 試合場には、選手、審判、読み手、総括審判及び主催者以外は立ち入ってはならない。
- 9 試合を観戦するもの（以下「観戦者」という。）は、主催者が定めた場所にて観戦することができる。
- 10 観戦者は、読みが始まったら一切身動きをせず、物音を立ててはならない。
- 11 試合場への出入りは、読みと読みの合間に行わなければならない。
- 12 競技が終了した選手は、読みと読みの合間に速やかにシートから離れなければならない。
- 13 観戦者や競技が終了した選手は、他の試合に指示を出してはならない。

第9条 感染症対策について

- 1 感染症対策については、個人の判断に委ねることとする。
- 2 競技中、出場選手、読み手、審判、観覧者に37.5°C以上の発熱があった場合は、大会への参加並びに観覧をすることができない。
- 3 前項の場合、選手、読み手、審判においては、交代する。交代する選手がいない場合は当該チームの敗退とし、その場で差枚数を記録する。

附則 この規程は、令和6年1月20日より適用する。